

第 1 回 2018 年 4 月 17 日 (火) : 第 11 期 一流塾 第 1 回・開塾式

2018 年 4 月 17 日に第 11 期の一流塾が開塾しました。塾生は、「チャレンジ精神を持った起業家」、「2 世・3 世の後継者」、「大企業の経営幹部」の三種混合の計 43 名（平均年齢 44 歳）であり、業種、規模、地域が異なる様々な企業から志の高い経営者や経営幹部が集いました。また、女性塾生は 6 名です。



一柳塾長

第 1 部では、一柳塾長から開塾の挨拶に続き、「出でよ、志ある経営者たち」と題して講話を頂きました。冒頭では、1 年間の目標を持って卒塾する時の成長をイメージして学んでほしいと話されました。そして、塾長と想いを共有する“ホンモノ”の講師陣に本音でぶつかって、一流感覚を身につけて欲しいと語りかけました。また、講師陣や仲間達と袂を脱いだ交流で良いネットワークを構築して横串を通せる人間になること、そのために一歩踏み出して行動し、経験を智恵に転嫁させて人間力を高めることが重要であると伝えられました。最後に、人生 100 年時代、肩書ではなく自分の名前で生きていくための気概や生き様も学んでほしいと塾生への期待と激励をお話し頂きました。

その後の塾生による 1 分間スピーチでは、それぞれの仕事や入塾に対する思いなどについて自己紹介が行われました。

第 2 部の開塾式では、一流塾特別顧問の福川伸次氏（(一財)地球産業文化研究所顧問、東洋大学理事長、元通商産業事務次官）、同じく一流塾特別顧問の斉藤惇氏（(一社)日本野球機構会長 日本プロフェッショナル野球組織コミッショナー、(株)KKR ジャパン KKR Global Institute シニアフェロー、前(株)日本取引所グループ取締役兼代表執行役グループ CEO）、一流塾顧問の渡邊五郎氏（元三井物産(株) 副社長）をお迎えし、塾生への激励のお言葉を頂きました。



福川特別顧問

福川氏からは、一柳塾長が官僚を辞めて独立し、次代を託す経営者を育てようと強い想いで一流塾を創設したことをご紹介頂きました。また、世界が変わる中で、日本がどうあるべきかを深く考えることが重要であり、職業人としての 5 つの心構えを示されました。そして、この一流塾で、一流のチャレンジャーになって欲しいと、塾生への期待をお話し頂きました。

斉藤氏からは、現在は価値観も何もすべてが多様化している時代であり、情報が完全にフラット化されている。この時代には、どういう生き方、行動をとるべきかは、自ら情報をアップデートして、自らが決めていく必要がある。一流の講師陣と大いに意見交換して、この塾を自ら価値あるものにして欲しいと励ましのお言葉を頂きました。



斉藤特別顧問

渡邊氏からは、人生は修羅場、土壇場、正念場を潜り抜ける冒険の繰り返しであるといったお話しをされ、一流塾という人生道場での縁を大切にし、人生を磨いてほしいと塾生を激励されました。



渡邊顧問



第 11 期一流塾 開塾記念撮影

懇親会では、冒頭の一柳塾長による開会の挨拶と、福川氏による乾杯の後、特別ゲストの野田聖子氏（衆議院議員、総務大臣・女性活躍担当大臣・内閣府特命担当大臣、元自由民主党総務会長、元郵政大臣、元消費者行政推進担当・宇宙開発担当大臣）から『日本の再生』と題して卓話を頂きました。

野田氏は、年間 40 万人という急激な人口減少が起こっている現実と、この人口オーナスによる危機的な状況を示され、この静かなる有事をどう受け止め、何をすることが今の人が背負う大きな課題であるとお話しされました。そのうえで、ご自身の政策のベースを、「落ち着いて」「優しく」「持続可能」というキーワードを用いて分かり易くご説明頂くとともに、現実目線で過去の成功体験を否定しながら、あきらめずに取り組んでいくと熱い想いを語られました。塾生は、日本の大きな問題に毅然と立ち向かう芯の通った姿勢にとっても感銘を受け、「テレビで見ているイメージが一変して、大ファンになった」との声も聞かれました。また、懇親会では塾生と気さくに交流され、その親しみやすい人柄に魅了されていました。



福川氏による乾杯の挨拶



特別ゲスト 野田氏



懇親会風景

卓話後には、野田氏との記念撮影が行われました。そして、斉藤氏からは、プロ野球コミッショナーならではのショートスピーチとサプライズでプレゼントがご提供され、一柳塾長、福川氏、斉藤氏、渡邊氏、野田氏を囲んでの歓談や塾生同士の交流で懇親会は大いに盛り上がりました。

終了後には、塾生有志による一柳塾長を囲んでの放談会が行われました。塾生たちは、これまでの緊張が一気にほぐれて会話も弾み、和気あいあいとした交流が夜遅くまで続きました。



放談会風景